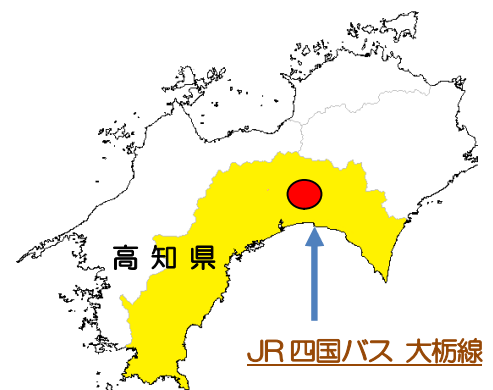


すぽっとライト

NO. 33

四国運輸局では、消費者ニーズや消費者行政上の課題を把握し、その結果を行政に役立てていくことを目的として公共交通機関の利用者等を対象にインタビューを行っています。

ジェイアール四国バス株式会社は、旧国鉄時代から四国各地にて路線バスと貸切バスの運行、昭和63年の瀬戸大橋開通を機に本州方面への高速バスの運行を行っています。このうち、路線バスについては、路線の廃止や縮小が続き、現在は大柵線と久万高原線を運行するのみとなりました。今回は高知県香美市の土佐山田駅と大柵の間を運行している大柵線の沿線でアンパンマンに関する話題も含めて、バスに乗られているお客さまや運転手さん、地域の方などにお話を伺いました。

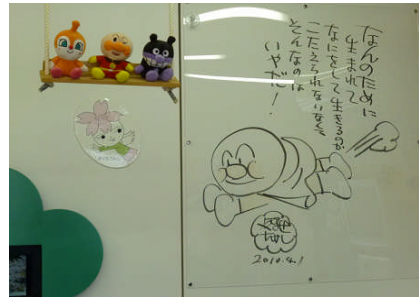


大柵線は昭和10年に運行を開始、かつては香美市内を網目のように走る路線のひとつでした。平成12年10月のアンパンマン列車の開通に合わせてバス停の名称を大宮からアンパンマンミュージアム前と名称変更してキャラクターのシールを貼り付けたバスの運行が始まりました。平成17年10月に全車両をアンパンマンのキャラクターのラッピングバスに、平成25年3月に新しい「アンパンマン号」が、そして6月からは「ばいきんまん号」と「ドキンちゃん号」が登場して子どもたちの人気を集めています。土佐山田駅前のインフォメーションセンターでお聞きしたところ、四国



内や京阪神をはじめ日本全国から、また、台湾などアジア各国や欧米からも多くの方においていただいているとのことでした。インフォメーションセンターには、やなせ先生からいただいた「からくり時計」がありました。この時計はアンパンマンやカレーパンマン等の丸くてかわいいキャラクターがクルクル回る仕掛けに加え、土佐山田駅に特急列車が停車する時間にメロディが流れる仕掛けもあるそうで、何度も来られるかわいいファンも少なくないそうです。

また、やなせ先生が開設時に来られた時に自筆で「なんのために生まれて なにをして・・・」が壁に書かれており、大人の方にもご覧になっていただきたいと思います。



土佐山田駅前には、大きな屋根が付いたバス乗り場があります。出発が近くなるにつれ、おばあさん、スーツを着た男性、中・高校生、小さな子供さんを連れのお母さんなど、ひと目で目的が違

うことが分かるお客さんが次々乗り込んできます。おばあさんから「運転手さん、回数券ちょうだい」運転手「はい、わかりました」、別のおばさんから「こっちもください」「はい、少しお待ちください」と親しみのこもったやりとりが耳に飛び込んできます。出発間際には平日の12時頃にもかかわらず高校生がお年寄りに座席を譲るさわやかな姿が目飛び込んできます。これこそ高知の『アンパンマン乗合バス』と私たちのインタビューが続きます。

おばあさんからは「買物と病院に行くのに何回も使っている、(ノンステップでなく)階段があっても大丈夫」。50代の女性は「1時間に1本あり便利だから通勤と買い物にいつも使っている、段差の少ないバスは乗りやすい」。スーツの男性は岡山から来られた大学の先生で、「高知工科大学に行くために初めて乗った。ラッピングはよくみかけるが内装もアンパンマンには驚い



た」。高校生は「テスト中、いつもはもっと遅いから子どもに会うことは少ないが、アンパンマンに喜んでいるちいさな子どもはとてもかわいい、はしゃいでも OK です」。子供連れのお母さんは「兵庫県から家族で来た、パパは車でアンパンマンミュージアムに向かった。神戸にもあるが、ここは特別な場所で大人も癒される気がする」。また、帰りのバスでは別の子供連れの両親が「大阪から新幹線とアンパンマン列車を乗り継ぎ昨日着き、アンパンマンバスに乗りミュージアムに向かったが休館日で入れなかった。それでも2歳の子供は、2日連続のアンパンマンバスに“また来たい”と大喜びです」とのことでした。途中から乗ってこられるお客さまもおり、賑やかな車内でした。



大柘線は、距離が20数キロメートルですが、窓から見える景色は40分とは思えないくらい目まぐるしく変わります。土佐山田駅周辺のスーパーマーケットや小売店、病院、高校、行政機関が集まる市街地、そこから少し離れると高知工科大学、まんやかに緑に囲まれたアンパンマンミュージアム近くの美良布駅、終点の大柘駅からは山間を流れる物部川のダム湖と自然がいっぱいです。地域の生活に欠かせないアンパンマンバス、そのバス停の美良布駅と大柘駅は待合室ですが、地域の皆さんにより、いつもきれいに管理されており、バス会社の方が清掃することはないそうです。ちっちゃなアンパンマンファンには楽しみ、大人の皆さんには癒されて欲しいと思います。大柘

駅からは少し離れていますが、香美市営バスに乗り換えると「べふ峡温泉」もあります。

バス会社の方によりますと、いろいろなお客さまにいろいろな目的で利用いただいており、雨の日等は自転車やバイク通学の工科大学の学生さんらが利用してくれて乗降にも苦労するほど混雑してご迷惑をおかけすることもあるものの、平日の昼間はお客さんが少なく混雑するのは珍しい。このため、採算面は厳しく、国・県・市から応援してもらって維持できているとのことでした。



最後にアンパンマンバスならではのエピソードをひとつだけ紹介させていただきます。大柘線は香美市内を運行しているバスですが、車庫は東京や大阪・神戸行き的高速バスと同じ高知市内にあります。普段は道路側にアンパンマンバス、長さも高さも大きな高速バスを奥側に止めていましたが、ある日、修理のために道路側に高速バスを止めてしまったために、アンパンマンバスが高速バスのおかげに隠れて見えなくなってしまいました。毎朝、幼稚園に向かう通園バスからアンパンマンバスを見るのを楽しみにしていた園児たちがガッカリしてしまったとの話を聞いてから、道路側に高速バス車両を置かないように気を付けているとのことでした。

通勤・通学、通院や買い物といった生活に欠かせない公共輸送機関として、四国の山間部や島しょ部などで急激に進む過疎化や少子高齢化といった問題を抱えながら、地域の方々はもちろんのこと、仕事や観光のために遠くからおいでいただいた方に、これからも「ジェイアールバスでよかった」といわれるよう社員の皆さんが日々、安全で快適な運行に努められている、ジェイアール四国バスの高知支店長さんからお話を伺い、今回のインタビューを終えました。

《アンパンマンミュージアム》

アンパンマンミュージアムは、アンパンマンの作者である「やなせたかし先生」の故郷である高知県香美市に平成8年7月に開館しました。ミュージアムの屋上から出たり引っ込んだりしているアンパンマンは愛嬌たっぷりです。

10月13日に亡くなられたやなせ先生はこの町で眠りたいとの生前の希望をかなえられることになったとお聞きしました。全国にもアンパンマンミュージアムがございますが、先生が大好きだった山と緑に囲まれた高知のアンパンマンミュージアムにも機会ございましたら、是非お立ち寄りください。関係者の皆様にお悔やみ申し上げますと共に、心よりやなせ先生のご冥福をお祈りします。



インタビュー実施日：平成25年10月16日（水） 聞き手：佐野、俵原